

# 始良市 母子寡婦福祉会だより

発行所 始良市母子寡婦福祉会  
会長 丸野 充子 Tel0995-66-3343



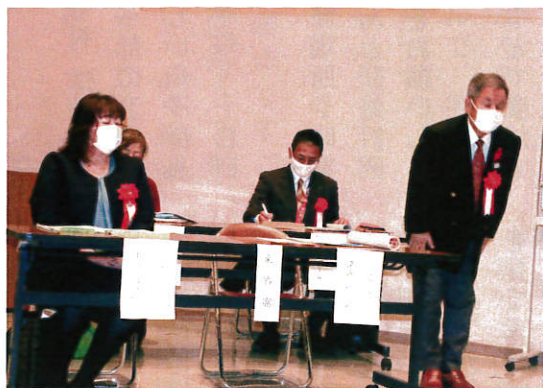
## 年間を振り返って

始良市母子寡婦福祉会

会長 丸野 充子

令和3年度はコロナ禍ではありましたが、注意をして支部総会を開催しました。市の総会  
は中止、社会福祉協議会の赤い羽根共同募金の配分金で計画した、ひとり親家庭交流会は1部キャンセル、母子寡婦福祉会だより新聞発行、いきいき活動パソコン教室は実行しました。会員の皆さんが楽しみにしていた一泊研修旅行はオミクロン株の出現で中止となりました。

県福祉研修大会、本県で開催



される予定の九州地区母子寡婦福祉研修大会、国際大学フィールドハウスで開催の母子寡婦父子大運動会も中止、県母連主催の母と子の交歓会等も中止となりました。9月14日は特別相談事業で「相続に関するルールを改正」の勉強会を司法書士の重野巨樹先生を講師として30名の参加者で開催しました。

始良支部と加治木支部との交流グラウンドゴルフ大会は加治木の陶夢ランドで10月30日に18名の参加者でとても楽しい1日となりました。11月7日の地区別母と子の交歓研修会は始良市の母子家庭10名寡婦10名計20名で鹿屋航空史料館、バラ園、霧島ヶ丘公園への日帰り研修でした。

12月5日始良地区（始良市50名・霧島市から70名）が参加し計120名が集い、母子寡婦福祉研修大会を蒲生公民館で開催しました。来賓に深浦社協会長・行政からは子ども未来課有田福祉課長が出席されました。講演は「ほめ日記」と題し

て上井七穂様がお話され、メモする人や質問をする人もあり、関心のある講話でした。体験発表は加治木支部の林キリ会員が「30年独りで生きる」と題して発表され参加者の心を奪いました。

## やってみて良かった

加治木支部 西脇めぐみ

初めての役員（母子部の会長）となり皆だれ一人知らないばかりでいろいろと心配しました。母と子の交歓研修交流会をするかしないかの話し合いでコロナ禍もあり毎日心が重たいでした。今村さんと何回も話しながら航空史料館と鹿屋バラ園・霧島ヶ丘公園を計画しました。2年ぶりの研修交流会当日は良いお天気に恵まれて良かったです。

航空史料館では戦闘機の見学や「戦争の歴史」のパネルを見回り、子どもたちと昔の事や戦争について勉強しました。大人たちも若いころを思い出して「そんな事あったね、あんなことあったね」と、いろいろな話をするのでした。



聞けて良かったな〜と思いました。時代の進化をつくづく感じました。今はコロナ禍で人々のかわりが少なくなつて交流会がなかなかできません。今回、母子の交歓研修交流会で皆さんと出会うことができ温かい気持ちになりほつとして幸せを感じました。皆さんからも優しい声を掛けていただき有難うございます。感謝の心でいっぱいです。新型コロナウイルスが早く収束して皆さんと交流できることを願っています。

### 母と子の交歓研修

加治木支部 今村 洋美

昨年はコロナ禍で母子部の活動が出来ず、今年やっと新しい母子部長西脇さんと引き継ぎをかねて1日研修を計画しました。

母子部の皆さんに研修場所や時期の意見を聞き、西脇さんと研修計画をたてて皆さんに参加をお願いしました。

仕事や子どもの部活などで参加できない人が多く寡婦の方々にも参加をお願いして20名で鹿屋方面を計画しました。雨を心配しましたが皆さんの日頃の行いのお陰?で当日だけ良い天気になり広い公園で子どもたちは元気に遊び、無事1日が終わりました。皆さんお疲れ様でした。



始良支部 竹森 陽子

コロナ禍になり、子どもと一緒に出掛けることがなくなっていたため、今回の研修は私たち親子にとって本当に久しぶりの遠出でした。

天気が心配されたものの、当日はとても気持ちの良い秋晴れに恵まれました。日頃の慌ただしさから離れ、鹿屋航空基地資料館や鹿屋バラ園で青空の下元気に走り回る子どもたちを見て、参加できてよかったと思いました。

研修を企画してくださった役員の方々や、研修に参加し子どもとふれあい、成長を見守って下さった会員の皆様に関心から感謝いたします。

始良支部 福本 朝美

普段はなかなか行けない鹿屋をおよそ10年ぶりに訪問しました。

息子が以前から、ずっと行ってみたいと言いつづけていたところです。

航空資料館では、外に展示してある数々の飛行機の大きさに圧倒されました。霧島ヶ丘公園では、広々とした芝生で仲良くお弁当を食べ、海の見えるゴーカートや、黒豚の丘から見える鹿屋の絶景を眺めたり、初めてのマウンテンバイクも、ヘルメ

ットを着けて、子どもたちと一緒になって山道のスリルを楽しみました。翌日は筋肉痛でした。最後の10分間で、バラ園を見て、バラソフトクリームを食べながら、バスで帰路につきました。

たくさんの方の優しさや、鹿屋のゆったりした風土、母子寡婦会のお母様方、お子様に助けられながら、皆で楽しむことができました。とても良い1日を、どうもありがとうございました。

来年の1日バス研修も楽しみにしております。

### 参加した子どもたちの声

加治木支部 西脇 美紀

資料館では日本が戦争をしていた時のことを多く学び、考えさせられることもたくさんありました。学校の方でも戦争に関する講演や芸術鑑賞で素晴らしい劇を見させてもらえる機会があったので、それと結び付けてより深く当時の苦しみや悲しみを感じました。

私がこの日特に心に残ったのは

「義は 山嶽よりも重く死は鴻毛より軽し」という言葉です。

「軍人の義務は戦争で戦うことであり死を恐れずに義務を全うしなさい」というような意味合いをもちます。軍人は死を恐れる気持ち・家族や友人と離れるつらさなどが抑えきれないほどあったはずなのに、将来の平和を願って自分の義務を全うしたんだな、と考えると本当の英雄だと思えます。この1日はすごく充実した時間を過ごすことができて良かったです。

加治木支部 西脇 勇世

ぼくは、母子会のみんなと日曜日にバスで鹿屋の方までいきました。最初に一時間三〇分ぐらいバスで移動してサーブエリアに着いて、海の近くまで行きました。

鹿屋に着いてまず飛行機の模型がたくさんある公園に行きました。そこには、昔の飛行機で救助のために使われたり戦争に使われたりした飛行機がたくさんありました。建物の中には武器や、昔の暮らし方がわかる品物もありました。

特に心に残っていたのはミサイルの模型が並んでいたことです。とても迫力がありいろいろなこと学ぶこと



マウンテンバイクは、スリル満点ですが、こい急カーブがあり、ぶっ飛びそうになりました。

航空資料館では、こんなに航空機の模型があるなんて、うらやましいと思えました。戦艦ヤマトや、空母赤城や、けいじゅんようかん矢矧の模型がめっちゃめっちゃリアルで、欲しかったです。

福本海里（9歳）

航空資料館は、飛行機がいっぱいあって、すごかった。霧島が丘公園は、遊具が大きくて楽しかった。

福本りん（7歳）

最後にバラ園に来ました。園の中ではひまわり、バラ、カスミソウの花がきれいに並んでいてとても心が落ち着いてマウンテンバイクやゴーカートにも乗ることができたのでとても満足しました。母子会で勉強になった事は、今後の生活にも役に立たせたいと思います。

ができました。

鹿屋バラ園のバラが綺麗だった。ゴーカートからは海や絶景が見られて、きれいだった。

福本穂乃花（11歳）

竹森 路佳（7歳）

このけんしゅうでいちばんうれしかったことは、おかあさんとバスにのって、はじめてかのやにいったことです。たくさん大きなひこうきやきれいな花を見たり、ともだちとゴーカートにのったりすることができてとてもたのしかったです。またみんなでどこかにいきたいです。

母と子の一日帰り研修

始良支部 桑原田 十三子

11月7日秋空のさわやかな一日、日帰り研修会でバス旅行をしました。

寡婦会の母子20名で8時30分始良・加治木を出発し、子どもたちの元気な声を聞きながら鹿屋に向かいました。

まず鹿屋航空資料館見学、広い敷地内にたくさんさんの飛行機が展示してありました。

資料館には戦時中の写真が展示してあり、はつらつとした若者たちを見て「どんな思いで戦地に飛び立ったのだろうか」「平和な現在を見たら

どう思うだろうか」と今、平和に普通に暮らしができる喜びを精一杯生きていきたいと思います。

バラ園では思い思いの場所で昼食をとり、手入れの行き届いた花々が美しく咲いている広い公園を歩き回りました。



いろいろ手配してくださった母子部の会長さん副会長さんお疲れ様、ありがとうございました

子育てが終わり

始良支部 森 一江

3人目の子どもが長崎の県立大学を卒業してはや4年の月日が流れました。

昨年、突然の皮膚がんになり、病名は、聞いたことのない乳房外ページェット病という名前でした。既に手のひらサイズまで広がり、内蔵の近くまで浸透した悪性の癌でした。6月、検査入院、7月は、1カ月の入院、癌になった皮膚を切り取り、おしり

の皮膚で移植するという大きな手術でした。

4回も癌になり不安が頭の中をよぎりましたが、この時は、死を覚悟しましたが、1カ月の入院で、無事退院し、治療しながら現在、そろばんや習字の塾の仕事をしています。

長男は介護福祉士の資格を取り、「いろは」の施設長となり、長女は、保育士と幼稚園の免許の他に児童発達障害、サービスマン管理責任者などの免許を取り、発達障害の施設で働いています。

次男は今東京の総合キャリアオプシオンで働き、私に大学を出してくれたお礼として、時々私の通帳にお小遣いを振り込んでくれます。

振り返るといろんなことがありました。つらかった事、うれしかったこと、たくさんさんの思い出をくれました。3人の子どもが、それぞれ立派になり、何も思い残す事はありません。私の家族を支えてくださった母子会の丸野会長・妹・11年前に亡くなった母・そして兄、たくさんの人たちに感謝の気持ちを忘れず、体に気を付けながら、3つの仕事をしていくつもりです。

研修大会のダンス発表

加治木支部 森山 レイ子

令和3年12月5日(日) 始良地区母子寡婦福祉研修大会が蒲生公民館で開催されました。加治木支部の私達9名は「フォークダンス」と、踊りの2曲参加することになりました。ダンスの苦手な私は不安で心は沈みがち「フォークダンスは見ていると簡単に思えるけど踊ると大変さが解ります」と、言われる通り、なかなか大変で身も心もついていきません。平均年齢80歳代でメンバーは「体がついていけない」「順番がこんがらがらなながら様になってきました。4回の教室だけでは練習が足りない」と別に公民館を借りて2回程練習をさせて頂きました。皆一生懸命練習したお陰で諦めずに



挑戦すればそれなりに踊れるようになるものだと気づかされました。当日、いよいよ私たちの出番です。先生からお借りした衣装を身につけると気持ちも若返り、皆乙女のような心持ちで舞台に立ちました。「バリから来た娘」の音楽に合わせて、間違えないように一生懸命踊ることが出来、無事に踊り終え「ホット」と同時に皆、目を輝かせ「良かった、良かった」と、達成感にひたりました。

母子寡婦福祉活動に参加して

加治木支部 森木 カズ子

人生ゴールに向かってひたすら頑張って居ります。高齢になり先ず健康第一を考えながら余生を過ごす中母子寡婦活動に参加できて大変有難く思っております。ますますの高齢に向って歩む中、元気で明るく楽しく毎日を送ることが出来たら、この上ない幸せと思います。喜んで活動に参加させて頂いているところです。

昨年末の母子寡婦福祉研修大会では、頑張ってフォークダンス(バリから来た娘)を、なんとか皆さんと踊れることが出来ました。終生記憶に残る事でしょう。

ご指導頂いた船迫先生に感謝です。また、パッチワークも挑戦して認知予防に良さそうです。何もかも忘れて、パッチワークに専念する時間、頭を使わずには出来ないことで、何回もやり直ししながら、出来上がったとしても嬉しいです。今後とも終活に向けて頑張りたいと思います。幸せを感じる「褒め日記」

始良支部 畑中 弘子

昨年はコロナウイルスの感染症の影響から不安な状況が続く忍耐の1年でしたが、東京オリンピックで、自らの限界に挑戦する選手たちの活躍に大いに勇気付けられた年でもありました。

12月に福祉研修大会が蒲生公民会であり役員の方々の準備も大変だったと思います。午前には講師上井七穂先生の「褒め日記」自分の良いところを褒めて勇気づける1時間余りの講演がありました。

- ① ～⑩までの褒め言葉、
- 1・自分の体の働きをほめる
- 2・行動(やった事、できた事)
- 3・内面(心・性格をほめる)
- 4・努力している自分をほめる
- 5・やめようと決めたことを実行できたほめる
- 6・感動したことをほめる

始良生活学校の皆様今年度もありがとう

食品ロス削減運動をされている始良生活学校から今年度、6つの大きな箱のプレゼントがありました。その中は暖かそうな毛布と敷毛布、バスタオル等でした。始良、加治木の4母子家庭に配布しました。子供達は大喜びお礼の手紙を届けていました。

母子寡婦福祉会会長 丸野 充子

- 7・発想や考えたことをほめる
  - 8・外見をほめる
  - 9・過去の頑張りほめる
  - 10・プラスの変化をほめる
- 今までに周りの人を褒める事はあっても自分を褒める事はあまりにも考えた事がなくて、気付きにくい事でした。
- 1日を無事に過ごした時、朝元気に目覚め料理が美味しく作れた時、また花の手入れが良くて寒い時期にクンシランの花が満開に咲いた時、そんな時に「よかった」とパッチリはなまる~~海~~をする。思わず顔がゆるみます。周りの人の好い所に気付いた時には、「ほめる事」自分もチョットだけ幸せを感じ「褒め言葉」を今年から始め、新しい一歩を踏みだします。